

【全体】

Q1 買収した会社(ビニタイ社・CMCバイオロジックス社)の業績寄与は？

A1 CMCバイオロジックス社の利益貢献は、今年は限定的と見ています。個別には開示できませんが売上高の絶対額はビニタイ社と比べて小さいです。ビニタイ社は上場企業であり、現地での決算発表が未了のため現時点で詳細な説明は差し控えさせていただきますが、昨年の通期決算は売上高500億円台の会社であり、我々のクロール・アルカリ事業と同様に苛性ソーダ、塩ビの数量・価格共に堅調です。

Q2 通期業績の上方修正について。期初予想との差(+100億円)は好調な化学品セグメントによるものでしょうか？ガラスセグメントと電子セグメントは上期で前年同期比減益となっていて厳しそうですが、どのような見通しでしょうか？

A2 会社全体としては期初予想でも上期と下期で+150億円の差があった構造です。修正後の業績予想でもガラスと電子も季節性により下期は増益となると見ていますが、期初予想から引き上げた主たる要因は化学品セグメントのクロール・アルカリ事業の増益効果です。

Q3 ガラスセグメントと電子セグメントは前年2Qの一時利益の剥落影響(合計で一約30億円)もあり前年同期比で減益ですが、影響がなくなる3Q以降は増益基調に戻るのでしょうか？

A3 建築用ガラスは今でも増益基調ですが、自動車用ガラスは北米で自動車生産台数がピークアウトしていたり、欧州の復調は時間がかかるため、ガラスセグメント全体での大きな増益は徐々に難しくなっています。電子セグメントは実はかなり踏ん張っており、特殊要因を除けば増益といっても良いのですが、残念ながら為替の影響があり、現時点では減益になっています。なお、原油価格は足元はマイルドですが、電気・ガスの期ずれ影響があるので下期は若干コスト高になる可能性があります。

【ガラス】

Q1 欧州の自動車用ガラスの生産不調は3Q以降に挽回できるのでしょうか？また、原燃材料価格も上がってきているようですが、欧州の建築用ガラスの見通しを教えてください。

A1 欧州は比較的経済が良く自動車生産台数が増えてきている一方で、難形状のガラスが増えており作るのに苦戦しています。歩留まりは徐々に良くなっていますが、急激に良くなる性質のものではないため、下期もマイナスの影響があると見ています。エネルギーコストも下期はマイナスに効く可能性があります。建築用ガラスの価格は西中欧・ロシアで昨年比で上昇しており、建築用ガラスについてはコスト増を価格上昇で取り返せると見ています。

【電子】

Q1 液晶用ガラスの需給状況をどう見ているのでしょうか？

A1 液晶用ガラスは、パネルサイズが大型化しているのも一つの要因ですが、年間一桁半ば%で需要が増えています。窯の数は増やさず、オーバーキャパシティにならないようにしています。

Q2 価格下落が緩やかになった先に、価格が反転する可能性はあるのでしょうか？

A2 まだそこまでは申し上げられません。今はまだ価格下落の方がコストダウンよりもインパクトが大きいです。何とか均衡状態に持っていきたいと考えています。

【化学品】

Q1 化学品セグメントの利益のブレイクダウンを教えてください。

A1 定量的な数値は開示していないので定性的になりますが、フッ素製品を中心にした機能製品は堅調に事業拡大・利益増加しています。特に今年は全般的に好調で、新冷媒(HFO-1234yf)も大きく伸びています。業績を最も引っ張っているのは東南アジアのクロール・アルカリ事業です。苛性ソーダ・PVCは需給タイトの状態が続いています。このような環境でビニタイ社を連結化したことも追い風となっています。

Q2 東南アジアにおける今後の能力増強について、どう考えているのでしょうか？

A2 東南アジアは需要が強く、外から輸入してこないとバランスが取れない状況です。機会があれば能力増強を狙っていききたいですが、慎重に検討します。

以 上